

ヒロシマを生きた  
女学生運転士と軍医の話

ヒロシマで

あの日、



**平和展**  
あの日、ヒロシマで

令和5年 **8/4** (金) - **9/6** (水)

被爆証言や手記をマンガにして発信しているハンドルネーム「さすらいのカナブン」氏の作品『あの日、ヒロシマで』とともに、1945年8月6日、原爆が投下された「あの日」、広島で起きたことに迫ります。関連図書も多数展示します。

杉並区立中央図書館 1階 展示コーナー

▶開館時間 月～土：9時～20時 日曜・祝日：9時～17時  
▶会期中休館日 8/17(木)



# あの日、ヒロシマで

1945年8月6日午前8時15分。  
 真夏の太陽がのぼる月曜日の広島朝。  
 人類史上初めて、原子爆弾が投下されました。  
 それは、地上約600メートルで凄まじい閃光を放って炸裂した後、  
 中心温度100万度を超える火球を作り出し、大爆発しました。  
 広島では、この原子爆弾によって、年末までに約14万人が  
 亡くなったと言われています。  
 本展では、さすらいのカナブン氏が描く実話とともに、  
 当時の写真資料などを交えて、未曾有の被害をもたらした  
 「あの日」の広島で何が起こっていたのか、「あの日」以後、  
 人々がどのように生き抜いたのかに迫ります。



撮影：米軍 提供：広島平和記念資料館

## book 平和を考える夏の一冊

『あの日、ヒロシマで』のほか、原爆被害とその復興や世界の紛争などの図書を多数展示します。

## ヒロシマで生きた3人の物語

### こだま あまだ じよこ 児玉(雨田)豊子 ▶

1928年、広島県(現)三次市生まれ。1943年に開校した広島電鉄家政女学校の一期生。路面電車の乗務中に被爆し、頭部を負傷するも、被爆の3日後に復旧した電車の運転を任される。救護所においては、怪我人の看護などに従事し、多くの級友を看取った。さすらいのカナブン氏の実の祖母。



### ますの こにし さちこ 増野(小西)幸子 ◀

1930年3月、広島県(現)三次市生まれ。小さい頃に広島市内で見た電車の運転士に憧れ、1944年、広島電鉄家政女学校に入学。体調不良により翌朝乗務を欠勤し、寮で休息中に被爆した。背中など114か所にガラスの破片が刺さる大怪我を負うも一命をとりとめる。背中の傷と被爆に関する世間の無理解が、戦後も彼女を苦しめることになる。

### ひだ しゅんたろう 肥田舜太郎 ▶

1917年1月、広島県(旧)段原町生まれ。1943年、日本大学専門部医学科卒業後、陸軍軍医学校を経て軍医少尉に任官され、広島陸軍病院に赴任した。広島市郊外の戸坂村で急患の診療を行っていたときに被爆。その直後から、被爆者・負傷者の救援、治療に当たった。戦後、杉並区内に開設された西荻窪診療所の初代所長となり、荒廃した日本の医療現場を支えた。



## さすらいのカナブン

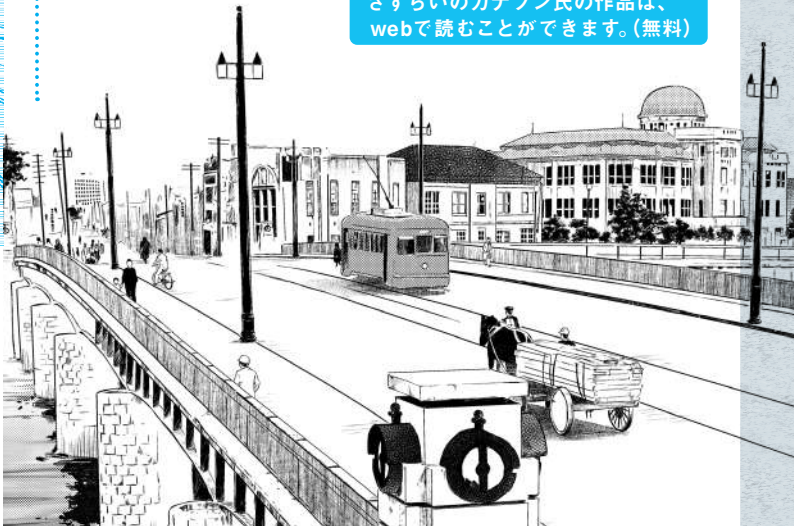


広島県出身・在住の会社員。路面電車の運転中に被爆した祖母から「御幸橋の上で見た被爆者の絵を描いて」と頼まれたことを思い起こし、被爆を伝えるマンガを描き始める。  
 作品はwebで無料公開されたことでも大きな話題となり、2015年にはNHKが黒島結菜主演でドラマ化した(『一番電車が走った』)。  
 2022年、初の単行本『あの日、ヒロシマで』を出版。「全国学校図書館協議会選定図書」にも選ばれる。

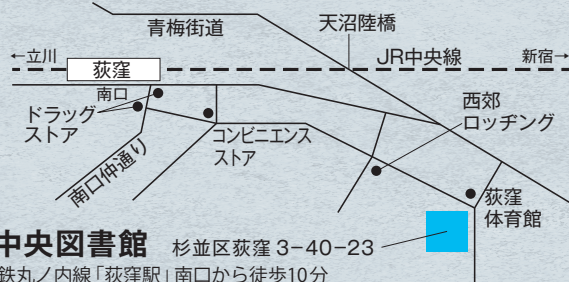


Manga Folio

さすらいのカナブン氏の作品は、webで読むことができます。(無料)



ACCESS アクセス



杉並区立中央図書館 杉並区荻窪 3-40-23  
 JR中央線、地下鉄丸ノ内線「荻窪駅」南口から徒歩10分

協力

みらい PUBLISHING

問合せ先

杉並区 区民生活部管理課  
 杉並区阿佐谷南1-15-1 TEL.03-3312-2111(代表)